

未来に向けてテイクオフ！ 2040年までに50機購入 大阪発「そらとぶタクシー」が韓国eVTOLメーカーとLOI締結 ～ 2025年に商用運航、将来的には国際線運航を目指す ～

2025年に空飛ぶクルマの商用運航を目指す、そらとぶタクシー株式会社(本社:大阪市住之江区、代表取締役社長:寶上卓音)は2023年5月3日、韓国のeVTOL(※1)メーカー・PLANA(本社:京畿道龍仁市、CEO:Braden J. Kim)と意向表明書(LOI)を締結し、2040年までに同社製のハイブリッドeVTOLを50機(1機700万ドル)購入します。さらに、AAM(※2)の開発・運航に関する覚書を締結し、将来的には国際線の運航を目指します。
※1 eVTOL(Electric Vertical Take Off and Landing) 読み:イーブイトール、電動垂直離着陸機
※2 AAM(Advanced Air Mobility) 次世代エアモビリティ

■ハイブリッドeVTOL50機購入、エアタクシー事業普及へ

2025年大阪・関西万博の目玉の一つとされる「空飛ぶクルマ」は、空中を移動する次世代エアモビリティとして注目されています。当社は、エアタクシー事業「Sky Taxi」の商用運航を目指し、昨年5月に設立しました。

購入するのは、PLANAが現在開発中のハイブリッドeVTOL「CP-01」(6人乗り)で、2030年までに10機、2040年までに40機の合計50機です。電気と燃料のハイブリッド方式により、約500kmの長距離を航続できます。機体は当社が運航するだけでなく、日本国内で機体の販売も行います。

当社は現在、パイロットの育成や新機材の導入、運航試験などを行い、2025年の運航開始を目指しています。航路は、梅田や難波などの都心部と日本の観光地や関西空港、神戸空港、将来的には韓国など国際線航路も展開します。

今回のPLANAとの業務提携により、エアタクシー事業者のニーズに対応したAAM機、運航コンセプト、インテリアデザインの開発、市場分析、実証実験において協働し、日本のエアタクシーの先駆けとして普及に努めてまいります。

■両社代表のコメント

【そらとぶタクシー株式会社 寶上卓音】
今回のPLANAとの共同プロジェクトは、アジア発のグローバルAAM産業に大きな影響を与えるものです。アジアを代表するAAM産業のモデルケースになれるよう、PLANAと最高のビジネスを展開していきます。

【PLANA CEO Braden J. Kim】
今回の意向表明書と業務提携の締結により、日本という大きな潜在市場を開拓し、世界で初めて国境を越えた旅行を視野に入れることができました。



(左から)そらとぶタクシー 取締役 丸山穂高、
同代表取締役社長 寶上卓音、
PLANA CEO Braden J. Kim、
そらとぶタクシー 代表取締役副社長 寶上和音

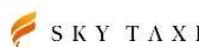


大阪ベイエリアを飛行する機体イメージ

■会社概要

大正15年創業、大阪で100年生き抜く大宝タクシーグループ

社名: そらとぶタクシー株式会社
本社: 大阪市住之江区北加賀屋5-5-28
代表取締役社長: 寶上卓音
ウェブサイト: <https://skytaxi.co.jp/>



PLANA社製ハイブリッドeVTOL「CP-01」(イメージ)



是非、貴社媒体での掲載のご検討をお願い申し上げます。ご不明な点がございましたらお気軽にお尋ねくださいませ。

◆ 取材や事業出資についてのお問合せ先 ◆

「そらとぶタクシー株式会社」広報事務局 担当=岡本 電話=06-4708-3766 メール=pr@raple.co.jp